

福岡県糟屋郡新宮町出土古丁銀

池上 宥昭

付 画像一〇九点・拓図八三点①

はじめに

福岡県の北部、福岡市の東隣に糟屋郡に属する新宮町という町がある。玄界灘に面し、離島の相島を含む人口約三万三千人の町である。平成二年（一九九〇）九月、同町大字下府において、慶長丁銀を含んだ古丁銀類が不時発見

された¹⁾。古丁銀類の出土事例としては、九州地方唯一にして、平成以降で現在まで最後の事例である（表①参照）。また、出土した古丁銀類は、新宮町が一括所蔵（新宮町立歴史資料館）しており、後述の毛利博物館の一括所蔵と並んで、出土古丁銀の事例として、その全容を知り得ることのできる資料の双璧を成している。

出土古丁銀の事例について、最も古い事例は『防長古器考』²⁾、『防長風土注進案』³⁾に解説される明暦二年（一六五六）四月一八日に現在の山口県

山口市八幡馬場に所在する今八幡宮出土の一〇点の記録である。しかし、いずれも出土当時の記録ではなく、百年二百年も経過した後世の編纂物である。なおかつ、出土した古丁銀について、前者は無刻字丁銀（通称・萩古丁銀）、後者は称天又丁銀といったように、その解説に違いがあり、原品そのものも盗難に遭い全て散逸してしまっている。この他、近世においては、現在の三重県度会郡南伊勢町神前浦⁴⁾、山口県光市小周防⁵⁾の二例があり、後者は毛

利博物館において一括所蔵されている。

また、明治以降には、山口県萩市下田万⁶⁾、三重県度会郡南伊勢町河内仙宮神社⁷⁾、島根県仁多郡奥出雲町横田岩屋寺⁸⁾、山口県山口市阿東生雲東分千頭⁹⁾において出土事例を挙げることができるとは、数点を残してほとんどが散逸の憂き目に遭っている。

すなわち、出土したものが一括所蔵される事例は、非常に稀であり、新宮町（新宮町立歴史資料館所蔵）の事例は、光市小周防（毛利博物館所蔵）の事例と並び貴重である。

本稿は、兵庫埋蔵銭調査会代表 永井久美男氏の先行研究¹⁰⁾に沿って、新宮町下府の出土事例をもとに、従来認識されてこなかった古丁銀類について、他の出土事例や伝世事例との比較を交えて考察を行う。また、執筆に当たっては、永井氏より先行研究で用いられた多くの資料提供をたまわったことを、冒頭記しておく。

なお、筆者は永井氏が令和元年（二〇一九）九月一〇日・一一日及び令和二年（二〇二〇）七月一日・二日に新宮町立歴史資料館で実施された調査のうち、前期日程に同行し、分類と計測に携わった¹¹⁾。



【図①】福岡県糟屋郡新宮町の位置

【表①】古丁銀出土例一覧（太字が本資料部分）

出土年月日	出土地（現住所）	備考（出土銭貨内訳など）
①明暦2年(1656)4月18日	山口県山口市八幡馬場今八幡宮	称天又丁銀または無刻字丁銀 計10点 総量1927g 『防長古器考』では全て完形品 安永8年（1779）盗難行方不明
②延享年間(1744～47)	三重県度会郡南伊勢町神前浦	無刻字丁銀 計13点 総量不明 内1点は本居宣長博物館所蔵「神前浦出銀の図」に描かれており、「厚サ壹分半グラ井」と解説。
③明和8年(1778)3月頃カ	山口県光市小周防風呂廻し喜助宅山下	無刻字丁銀43点 一文字様丁銀1点 計44点 総量2695g 完形品15 切遣品29 毛利博物館一括所蔵
※明治10年(1877)以前	鳥取市気高町上光馬場神社	馬場神社の所在不明 銀塊 計15点 東京国立博物館一括所蔵
④明治25年(1892)2月	山口県萩市下田万児玉与左衛門氏所有地	無刻字丁銀1点 御公用丁銀1点 一文字丁銀2点 彦四郎丁銀1点 安部丁銀1点 計6点 総量750g 完形品4 切遣品2 児玉家2点所蔵 4点散逸
⑤大正4年(1915)6月27日	三重県度会郡南伊勢町河内仙宮神社	無刻字丁銀20点 東京国立博物館2点所蔵 (2点量目 363.75g および348.75g)
⑥昭和17年(1942)9月	島根県仁多郡奥出雲町中村岩屋寺	無刻字丁銀10点 一文字様丁銀2点 不明5点 計17点 総量不明 完形品8 切遣品4 形状不明5 貨幣博物館3点所蔵 中村俊郎氏2点所蔵 汐留古泉会1点所蔵 『ボナンザ』1点、『試銭拓模』11点掲載 「コモイ（井）」の墨書があるものが7点 (※少なくとも10点は無刻字、5点不明)
⑦昭和49年(1974)9月20日	山口県山口市阿東生雲東分千頭荒堀 大谷寿美熊氏所有地	無刻字丁銀58点 一文字様丁銀2点 計60点 総量1273g 完形品8 切遣品49 古代出雲歴史博物館3点所蔵 筆者2点所蔵 九州某氏1点所蔵 近畿某氏1点所蔵 中国某氏1点所蔵 内田宏氏1点所蔵 中村俊郎氏6点所蔵 汐留古泉会10点所蔵
⑧平成2年(1990)9月21日	福岡県糟屋郡新宮町下府3丁目 町道萩原1号線	白極丁銀2点 彦四郎丁銀1点 一文字様丁銀1点 刻印不明丁銀3点 無刻字丁銀98点 慶長丁銀1点 灰吹銀3点 計109点 総量1197g 完形品3 切遣品106 新宮町立歴史資料館一括所蔵

下藤清石『霜堤雑草(9)』神田信吉 1907 山口県文書館『防長風土注進案 第12巻 山口宰判 上』山口県立山口図書館 1960
 佐野英山「出雲銀判」『月刊ボナンザ』41年7月号 頌文社 1966 小笠原長鑑林以成編『防長古器考 中巻』マツノ書店 1992
 永井久美男編『近世の出土銭Ⅱ一分類図版篇一』兵庫埋蔵銭調査会 1998 大庫隆夫氏所蔵 英山翁拓本帳『試銭拓模 完』
 鳥谷芳雄「福岡県新宮町出土の古丁銀一括資料について」『世界遺産石見銀山遺跡の調査研究4』報光社 2014
 鳥谷芳雄「本居宣長が描いた古丁銀図一伊勢国南嶋神前浦出土一」『季刊文化財(140)』島根県文化財愛護協会 2017
 鳥谷芳雄「三重県旧吉津村出土の古丁銀」『季刊文化財(142)』島根県文化財愛護協会 2018
 拙稿「石州銀と長州銀—古丁銀類の出土例に関わって—」『出土銭貨(39)』出土銭貨研究会 2019
 永井久美男「福岡県糟屋郡新宮町下府出土の古銅銀錠」『出土銭貨(41)』出土銭貨研究会 2020
 拙稿「山口市阿東生雲東分千頭出土の古銅銀錠」『出土銭貨(41)』出土銭貨研究会 2020

より作成